



みちのくの浄土（平泉）

先日、福岡市の博物館へ行ってきました。「平泉 みちのくの浄土」展が開催されていたので、見学してきました。平日でしたが、多くの方が訪れていました。年齢的には中高年の人がほとんどで若年層はあまりみかけませんでした。九州から遠い地で、出かける機会もないので福岡で中尊寺の金色堂を見られるのはありがたいことでした。奥州藤原氏がこの世に浄土をつくらうとこととで開かれた平泉です。

時は平安時代、みちのくで繰り返された、前九年、後三年の戦は藤原氏の勝利で終わりました。しかし、ここを治めた藤原清衡は、地獄のような悲惨ないくさを見て、この世の人々、生きとし生けるもの全てが救われるような場所を作りたいと願ったといひます。

金鶏山を西に仰ぐこの平泉の地を、この世の浄土としました。

清衡は中尊寺を、次の基衡は毛越寺（もうつうじ）をさらに三代目の秀衡は無量光院を建てたのです。

この藤原氏三代は金色堂の須弥壇の下に遺骸を納めています。金色の光のちからによって悪魔を払い遺体を守る為であったようです。

さらに、金鶏山を須弥山に見立てその山頂には経を納めた壺や筒を埋めていました。

つまり、この山は経塚であり清衡以下三代にわたって納経したのだそうです。

自らがあの世で安楽に過ごす為ではなく、阿弥陀仏の極楽世界に往生し、弥勒下生（降臨）の際にこの世に復活することを願い、遺体を金色堂に埋葬していたのです。

毛越寺には浄土の庭園が作られ、今も当時のままの姿を見ることができます。

无量光院は、今は痕跡が残るだけですが、宇治の平等院の鳳凰堂をしのぐ大きさがあったといひます。

1000年以上の時を経て、今多くの人々の心を集めるのは、いつの時代にも、人々が平和を願い幸せな暮らしをのぞんでいるからでしょう。

仏の世界をこの世に写しとるべく、平泉の街を作った藤原氏三代の強い願いが、今に生きているからなのではないでしょうか？

檀信徒各位

彼岸法要のご案内

聖名、日 1 日と暖かな陽射しの今日この頃となりました。

皆様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

平成 21 年に入りまして、早や 3 月の声をきき、恒例の春のお彼岸を迎える時期となりました。

就きましては下記のように春季彼岸法要を厳修いたしますので、ご多忙の処とは存じますが、お繰り合わせご参詣下さいますようご案内申し上げます。 合 掌

平成 21 年 3 月上浣

無量寺 住職 堤 俊翁 拝

※期 日 3 月 20 日 (金) 午後 1 時よりご回向、講演

※ご回向料 1 霊につき 金 1,000 円以上ご志納下さい。

※お供え米、お供え米料 随意ご志納下さい。

ご本尊様のお供え、お花代等にさせていただきます。

※講 演 「親孝行とは毎日遺伝子を大切に使うことです」
分子生物学からの生存の理法

講 師 林田 繁 氏

プロフィール

1951 年 福岡県生まれ

1978 年 東京慈恵会医科大学卒業

1990 年 千葉ホリスティック天王台クリニック院長

※温熱療法、BRM 療法、精神神経免疫療法等による癌総合療法

1994 年 医療法人松風海 内藤病院 副院長

※内科、腫瘍免疫（癌生物学）療法、保養施設（りんでんぼうむ）園主

日本癌学会、日本内科学会、日本消化器外科学会、日本ハイパーサーミア学会、

日本温泉気候物理学会、日本禁煙推進医師歯科医師連盟会員、日本がん看護学会

キャンサーヘルプネット代表

現在、ガンのお患者さんやその家族の方を対象に、毎月 2 回の勉強会を開催。

その回数は天王台クリニックでの勉強会を含めると 500 回以上

説相箱

釈尊の生涯

釈尊は道を大成してから後のある日、「私は生死の法のなかにある。病むものである。老いるものである。死ぬものである。憂い多い存在であり、けがれにみちた存在である。それなのになぜ私は依然として、この生死の法に執着するのであろうか。こうして私は、そのわざわざ多いきことを知り、執着すべきでないことをさとり、出離すべきことをおもうにいたった」と、若き日を回想して語った。

人間の一生涯における望みすべては生を前提として、その上にくりひろげられるものであり、それらは常に死という厳粛な事実によっておびやかされ、ついにそれによって破壊されるものである。わが身はたとえ生老病死そのものであっても、それらにたいする執着をうちやぶって、生死にわずらわされない広々と

した、なにものにもさえぎられない大空のような心を持ちたいと望んだ。これこそ太子をして出家せしめる動力となった聖なる求めである。

いつものように王宮の木陰で思いついておられる太子のもとに、わが子の誕生が告げられた。王宮の内外は王孫の誕生を祝うよろこびにわきたった。その歓呼の嵐遠くに近くに聞きながら、わが子にラーフラ（障碍という意味）と命名した太子は、おもむろに座からたちあがり、白雪をいただくヒマラヤの一角を凝視しつつ「時は来たれり、時こそ今なり」と、出家の決行を人知れず、力強く宣言した。

「私はその時、なお年わかしくして漆黒の髪をいただき、幸福と血氣とにみちて人生の春であった。父母はわたしの出家を許さなかった。わたしはわたしの出家の決意を知った父母は慟哭した。しかしわたしは髪をおとして、在家の生活をすてて出家の求道者となった」と述懐したように、出家した行為は肉親のものとの別離の苦しみという感情との妥協をゆるさない程きびしいものであった。

四国編

ぶっかけうどん

浄土宗～かるな～より

<材料>

うどん玉 1 玉

油揚 60g

卵 30g

かまぼこ 20g

かいわれ大根 適量

生姜 少々

だし汁 2 分 1 カップ

かぜくでおいしい!
かくな流 精進料理



【作り方】

- 1 油揚は熱湯をかけ油ぬきし、千切りにして甘辛く煮しておく。
- 2 卵は薄焼きにして千切りにする。
- 3 だし汁に醤油、味醂、砂糖を加え、味を整え一度煮立ったら火からおろして冷しておく。
- 4 うどんの上に材料を盛りつけ (3) をぶっかける。



視覚障害者のフルート演奏



2月17日 君にとどけたい愛のコンサートが開かれました。カーラビンカ合唱団も参加し（月と三門）を歌いました。



ヴァイオリンもすばらしい演奏でした。

カーラビンカの練習日は2月より第2木曜日と第4土曜日の午前10時からです。

彼岸法要の日の駐車場です。



院号授与式



法月院 吉田 昭生 殿

お念仏に精進され、この度院号をお受けになりました。